

Injury Alert (傷害速報)類似事例

スチーム式加湿器による全身熱傷 (No.93 スチーム式加湿器による背部熱傷の類似事例 3)

事例	基本情報	年齢：2歳 4か月 性別：男児 体重：12kg 身長：88cm
	家族構成	父・母・姉
	発達・既往歴	異常なし
臨床診断名		Ⅱ度熱傷（範囲：体表の20%、顔面、頸部、両上肢、体幹、左下腿、右足）
医療費		入院 3,090,000円
原因対象	対象名称	スチーム式加湿器（サイズ 19.5cm × 20cm × 28.5cm、重量 1.7kg、水タンク容量 2.4L）
	入手経路 使用状況	祖父母宅で毎年冬の間は常時使用している
発生状況	発生場所	祖父母宅の居間
	周囲の人 周囲の環境	傷害発生時、家の中には母親、祖母、姉と本児がいた。居間には本児と姉の2人がおり、テレビを鑑賞していた。母は洗面所に行っており、祖母は入浴中であった。
	発生年月日	2023年2月X日（木）午後8時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	母と姉と一緒に母方祖父母宅に帰省していた。X日午後8時30分頃、母が居間から洗面所に行ったところ、大きな音がしたため居間に戻ると、棚（高さ80cm程度）の上に置いていたスチーム式加湿器が床に落ちて転がっており、フローリングが水浸しになっていた。そのすぐ傍に本児が立っており啼泣していた。加湿器内の湯をかぶったことがわかり、浴室に連れていきシャワーを浴びさせ、脱衣をさせて再度シャワーを浴びさせた。その後救急車を要請した。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>午後 9 時 25 分に病院に到着した際、第一印象は不良で代償性ショックの状態であった。急速輸液により循環不全は改善し、PICU 入室後 Baxter 法に基づいた輸液療法、保温、疼痛管理を開始した。熱傷は全体表面積の 20%程度の範囲で、部位は顔面、頸部、両上肢、体幹、左下腿、右足に及んだ。熱傷深度は浅達性Ⅱ度熱傷と深達性Ⅱ度熱傷が混在していた。形成外科併診のもと、連日の洗浄と外用療法を行った。しかし、創部感染を合併し、熱傷深度の進行を認め、頸部、前胸部、左上肢は部分的にⅢ度熱傷に至った。壊死部に対して外用薬による化学的デブリードマンを行い、壊死組織が残存している箇所に対して超音波デブリードマン装置を用いた水圧式デブリードマンを行った。その後、創部の上皮化・肉芽形成が進み、植皮術は不要と判断された。PICU 入室 12 日間を含み X+32 日目に退院となった。外来治療は他院で行うこととなった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>熱傷、熱湯、スチーム式加湿器</p>